

## 社会福祉法人ゆうゆうと包括連携に関する協定を締結

11月18日(金) 本学当別キャンパスにおいて、社会福祉法人ゆうゆう(大原裕吉理事長)と、包括連携に関する協定を締結しました。

社会福祉法人ゆうゆうは、大原理事長含む本学看護福祉学部のOB4人が中心となって創設した法人です。「共生型の地域を創ること」をビジョンに掲げ、現在は当別町や江別市を中心に従業員130名超で17施設を運営し、本学学生の実習やボランティア活動に協力いただいております。

この度、学生が「福祉・医療を現場で学ぶこと」をさらに円滑に進めるべく、締結を迎えることとなりました。これにより、医療・福祉・介護の人材育成をさらに発展させ、社会福祉法人ゆうゆうと共に社会貢献を図ってまいります。



左:浅香学長 右:大原理事長

## サハリン州立歯科病院にて歯科技工士セミナーを実施

12月15日(木)・16日(金)の2日間、本学歯学部舞田健夫教授、佐藤圭史講師と大学病院歯科技工部の原研一主任がロシアのサハリン州立歯科病院を訪問し、「歯科技工士セミナー」を実施しました。

セミナー初日には、本学とサハリン州立歯科病院の歯科医療交流に尽力されたエレメーエフ院長の功績を讃え、北海道とサハリンの今後のさらなる医療交流の発展を願った記念プレートが、本学より州立歯科病院へ贈呈されました。

セミナーには、昨年本学で研修を行ったロマン・ヴィズィレンコさんやタチアナ・オベルティンスカヤさんを含む州立歯科病院の歯科技工士、さらに、サハリン州各地から歯科技工士が集まり、インプラント補綴におけるニケイ酸リチウム活用法について学びました。参加者から「二日間の講義では足りない」「追加の講師料を払うからもう少し留まってほしい」等の意見が出てくるなど非常に好評を博した講義・実技のセミナーとなりました。



記念プレートの贈呈  
左:舞田教授 右:エレメーエフ院長

## 学生・模擬患者参加型多職種連携模擬病棟ワークショップを開催

本学は医療系総合大学として5学部を擁し、これまで多様な場面で多職種連携教育を実施してきました。今回、更に多職種連携教育を充実させるべく、学長の提案で、新しい教育方法を模索する「教育向上・改善プログラム」の一つとして、「模擬患者を中心とした多学部連携模擬病棟の構築」と題して新たな試みを行いました。これは、模擬患者を「入院」させることによって「模擬病棟」を形成して、各学部の学生が医療スタッフとして参加できるカリキュラムを構築するという提案であり、その前段階として、今回は、学生・模擬患者参加型多職種連携模擬病棟ワークショップを開催しました。

11月3日(木)、祝日での開催でしたが、多数の教職員、学生が参加しました。大野弘機学事相談役、今野多美子特任講師にオブザーバーとしてご参加頂き、多職種連携に関して、名古屋大学附属病院で多職種連携の実務経験のある阿部恵子先生による講義や、中央講義棟6階の実習室に「模擬病棟」を設置して、学生が模擬患者とコミュニケーションを行う体験を実施しました。その後、多職種間のディスカッションを行い、

プレゼンテーションを行いました。

初めての試みでしたので戸惑いもありましたが、学生にとって新鮮な体験だったようで、「他の職種の人たちが使っている言葉がわからなかった」「各職種で患者に対する目線が違うなと感じた」など、学生から意見が出され、教育をする側にとって新たな発見のあったワークショップでした。今後カリキュラムへの導入を目指してチャレンジしてまいります。

医療関係者にとって、多職種連携は「患者中心の医療」に欠かせないスキルの一つです。本学はこれを学ぶための絶好の環境が整っています。現場に出てリーダーシップを発揮できるような医療人を育てることができればとても素晴らしいことだと思います。



## EDITOR'S NOTE

早いもので今年度も卒業・修了の季節がやってきました。卒業論文、修士論文、博士論文、国家資格や各種資格試験、就職活動などを通じて、急激に社会人らしく成長していく学生の皆さんの姿を見ることができるのは教員として最も嬉しいことのひとつです。最も嬉しいことのもうひとつは、巣立った後にさらに成長した姿を見せてくれることです。もちろん困った時に相談に来てくれることも嬉しいですが、卒業・修了後の嬉しい報告を待っています。

自分自身を振り返ると、卒業後は臨床や研究などで貪欲に幅広く知識を吸収し、学会や研究会、研修会に積極的に参加し、多くの先輩や先生方、同期などのアドバイスに耳を傾けていました。すぐに成長を感じる事ができずにモヤモヤしていた時期もあったように思います。それでも継続していくと、知識や人脈に幅が広がり、気づけば成長していたかもしれません。卒業生、修了生の皆さん、全戦全勝はできません。内省したり知識を増やしたりしながら勝負を繰り返してくれること、時折、そのもがきを報告するために母校に戻ってきてくれることを切に願っています。

(J・K記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.166

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一  
遠藤 紀美恵 志波 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子  
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 昌彦  
宮川 雄一 塚田 将人 園部 望未

発行日 ● 2017年3月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町沢1757  
☎0120-068-222  
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。  
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

